

「公園マネジメント会議 令和元年度第2回総会」結果概要

日時 令和2年1月28日(火)14:00～16:30

場所 地球市民交流センター 体験学習室 2.3

議題(1):令和元年度評価委員の選出について(承認事項)

(報告・承認)

- ・評価委員の選出について、事務局より、以下の提案が立候補3名と事務局推薦3名の合計6名を今年度の評価委員会の委員とする提案が事務局より報告され、承認された。

立候補者…日本食育健康新聞社、公益財団法人愛知公園協会、
公益財団法人愛知県都市整備協会

事務局推薦…インタープリターズ・ユニット 森あそび本舗、長久手 Studio 株式会社中島工務店、
長久手市役所

(質疑・意見交換)

- ・特に意見なし。

情報共有:(1)情報共有にあたり、会員で共有したいこと

- ・第1回総会で、令和元年度は「公園マネジメント会議のあり方」を再度話し合うことを確認し、その後、コア会議では以下のような協議をしてきた。

第1回総会(R1.6.4) 今年度の議題として「公園マネジメント会議のあり方」を話し合うことを確認した。

第1回コア会議(R1.8.27) 会議の「意義」や「仕組み」の再確認をした。

第2回コア会議(R1.11.7) 取り組むべき課題の確認。「分科会制度の見直し」を協議し解決策を決めた。

第3回コア会議(R1.11.28) 「特権の取り扱いの再整理」を協議し解決策を決めた。

第2回総会(R2.1.28) コア会議等これまでの検討の情報共有をする。

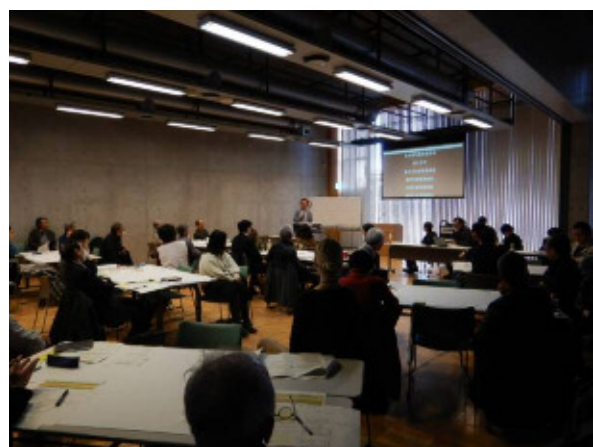
第4回コア会議(3月上旬) 運用ルールブックの改定(案)を協議し決める。

次年度第1回総会 運用ルールブックの改定について【承認】する。

これまでに実施したコア会議で、「公園マネジメント会議の会員は、公園で何かしら活動がしたくて参加している。だから、もっと活動しよう。また、他の会員が、どんな思いで、どんな活動をしているのかを知ることで、公園マネジメント会議全体が活性化される。」との話があった。そこで、今回、「万博サンパフェスティバル分科会」の活動事例を紹介する。

<GORIN ENTERTAINMENT の神保氏より活動報告>…映像紹介含む

- 2005年、モリコロパークで開催された愛・地球博。その理念、大交流と自然の叡智を受け継ぎ、2016年にシャララ万博カーニバルを発足。モリコロパークのある長久手市は、現代ではめずらしく若い家族が増加している。その反面、課題となっているのが、もともと住んでいる世代と新しく住み始めた世代の交流。世代を超えて、みんなが交流できる方法はないだろうか。そして思いついたのがライブステージ。ひとつのステージをつくりあげていく楽しさをみんなに体感してほしい。そんな気持ちからシャララ万博カーニバルは進み始めた。いつもとはちょっと違った交流が子どもたちを豊かに育み、世界をもっと元気にしてくれるはず。それを私たちは目指している。
- 6月には岐阜でシャララ万博カーニバルを開催予定である。家族と一緒に音楽活動をしている障害者グループの方と岐阜ソングをつくり、岐阜放送やFC岐阜の協力も得ながらイベントを開催したい。
- 7月には刈谷でもシャララ万博カーニバルを開催予定である。座談会（外国籍の子どもと刈谷の小学生と市長）でのワードを歌詞にしようと計画している。（刈谷市政70周年記念ソングになるかもしれない。）
- 9月6日にはモリコロパークでシャララ万博カーニバルを開催予定だが、車いすのダンスグループとサカダンという合唱グループのコラボを検討している。第3回コア会議でも紹介させてもらったが、すでに分科会も立ち上がっている。資金集めも含め、お手伝いいただける方を募ったところ、手を挙げてくれた方がいた。他にも協力していただける方がいれば、連絡をお願いします。



情報共有：(2)分科会の活性化を図ろう！

- ・第2回コア会議で、分科会制度の見直しを行った。分科会は、総会やコア会議で協議したことを実践する組織であり、公園マネジメント会議において、大切な役割を担っている。そのため、以下の内容を取り組むことで“活動の活性化”と“情報の共有化”を図ることとする。

1. 活動を終えた分科会は完了とする。休止している分科会は廃止とする。

- ・終わる手続きが明確でない⇒分科会の完了及び廃止のルールを作る。
- ・活動が無い(計画及び報告書が提出されない)分科会は廃止とする。
- ・評価委員会で活動状況の評価を行い、総会で活動の承認を行う。

2. 分科会は活動計画及び実績の報告の提出をする！

- ・分科会活動の計画、結果、参加・協力の募集に関する情報を全体で共有する。

3. 各分科会の活動情報を共有しよう！

- ・第1回総会、SNSなどで各分科会の活動内容を紹介する。
- ・地球市民交流センター内に公園マネジメント会議の掲示板を設置し、分科会一覧、活動に関する募集などを掲示しPRする。
- ・Webページの充実を図る。

(グループで意見交換後、全体で質疑・意見交換)

- ・昨年、「ジブリパークとつながろう」という分科会を申請させていただいたが、時期尚早ということで活動は行われていないが、扱いとしてはどうなっているのか。
 - ジブリパークに関連して、本会議ができることなどを議論していくことも必要になってくると思う。今回の分科会の見直しにより、全ての分科会を一旦解散して、今後も活動の意思がある分科会は、再度、活動計画を立てて設立することになる。分科会設置はジブリパーク構想推進室からの情報を確認しながら行っていけるとよい。
 - ジブリパークとの関わりについては、県主導ではなかなか難しく、扱いづらいことではあるが、会員の皆さんは非常に興味のある分野でもあるので、我々の組織としてまとまってできることがあると思う。次年度はいろいろ情報を提供してもらえよう活動ができるとよい。
- ・分科会の新規申請において、運用ルールブック改定の中で、手順等示していただきたい。
- ・我々の団体は、秋まつりや門松づくり、サトラボ収穫祭等に参加しているが、分科会とどう関わっていけばよいのか教えていただきたい。今後も活動は継続していきたいと思っている。
 - 例えば、「子どもの遊び場を検討する分科会」で、子ども達が遊べる場所をもっと提供していくための検討をした時に、会員のプログラムを「このタイミングで、こうやっていったら、もっと子どもの遊び場が増えるよね。」といった関わり方で分科会に参加してもらってもよい。他には、

もし、「熱中症対策を公園で考える分科会」があったら、自分たちのプログラムに参加した子ども達が熱中症になった場合の対応を、分科会で検討しておけば、公園の魅力にもつながる。

- ・【三矢コーディネーター】いくつかのテーブルでの議論を聞いて、今までの分科会の管理の甘さを改めて感じた。毎年、分科会代表者には報告書のシートをお送りしており、事務局もある程度は把握をしているが、それが会員の皆さんに共有されることがあまりなかった。また、今までは活動計画の提出ルールがなかったため、活動の意思がある分科会はどこなのか共有する場面がなかった。今回の見直しで、分科会の活動計画及び実績報告の提出を徹底し、情報の共有化を図れるとよい。



情報共有：(3)活動に対する協力体制について

・第3回コア会議では、活動の協力体制について議論した。皆さんから、地球市民交流センターの先行予約について「自分たちの団体の活動で利用している」、「公園マネジメント会議の活動のために使われていない」などの意見があり、これら特権的な取り扱いを再整理した。

<再整理の概要>

会員は、 地球市民交流センターの12ヶ月前から先行予約ができる。	対象を「会員」から 「分科会」に見直す。
分科会は、 ネットあいち等で予約する有料施設の優先予約ができる。 (内容や場所など調整が付いた場合に限る)	現状維持。 ただし、手続きの見直しは行う。
分科会は、 公園管理事務所のコピー機を無料で使用できる。 (年間の上限あり)	現状維持。 ただし、手続きの見直しは行う。
分科会は、 公園管理事務所で備品を無料で借りることができる。 (ただし、内容や場所など調整あり)	現状維持。 ただし、手続きの見直しは行う。

※以上の内容は、運営ルールブックに内容を追記して、次年度第1回総会で承認をえる。

<質疑・意見交換>

- ・分科会には期限はあるのか。分科会は実行組織だと思うので、実行して成果を報告したら終了するのがよい。それを繰り返していれば、活動しているか。活動していないのかが分からないということはないか。
 - 今までは、分科会の廃止ルールも曖昧であったが、今回のルール改正で活動計画及び実績の報告が必要になるので、実質的に単年度制（1年ごと）という解釈でいい。
 - もちろん、単年度ごとにしっかり審査するが、イベントの終了時や目標達成時というのも掲げてもらい、トータル的に終わりを明確にしてもらえるとよい。
 - 今後、評価を行っていくのは素晴らしいと思うが、分科会活動のあり方として、数年に1回という活動もあると思う。例えば、1年に5回以上活動しないと…という話になると厳しいと思う。マイペースに活動を続けていけるのも市民活動の良さでもある。
 - 活動の回数で良し悪しを判断する議論はしてきていない。ただ、活動計画及び実績の報告は節目をつけたい。今年実施しなかった場合は、そのように報告してもらい、来年の計画を提出する。

- ・私たちは総会には出席しているが、分科会活動は行っていない。地球市民交流センターや野球場（凧あげ大会）で個別の活動をしている。コア会議や分科会メンバーでもない団体だが、今後、活動がやりづらくなるということか。（年間予約が厳しくなる）
 - 活動をやりづらくするためではなく、公園マネジメント会議として承認された活動を応援するもの。ただ、個別の団体の活動においては、地球市民交流センターのパートナー登録制度の先行予約（6ヶ月）を利用することになるので、現状の12ヶ月前からは出来なくなる。

- ・分科会活動がどういう形で行われ、どんな結果が出ているかを事務局が把握していないし、会員に共有されていない。月次や半期ごとの報告や情報共有のきっかけづくりを事務局にはお願いしたい。
 - 大きな方向性として、報告と共有の流れは今やろうとしていることである。1年単位でしっかり報告をしてもらおうというところまでは決めたが、もう少し密に情報を出すことも出来る仕組みがあってもいいかと思う。共有の方法としては、ホームページの活用ももちろんだが、地球市民交流センターに分科会の掲示板を設けていきたい。各分科会の活動内容を知ることで、参加・協力を得られやすくなる。
 - 毎月、月末には、パートナーや分科会の方も活動内容を報告し、翌月には掲示できるようにしていかないと、結局「わからない」のままで、分科会だけが目立ってしまう。今後、分科会も高齢化社会の日本を考えた時に、いろんな組織体と一体化すれば、効果的な集客要因にもなる。分科会同士の報告会だけを1年単位でやっているだけではまずいのではないか。
 - 会員の活動の情報共有は大切なことだと思うが、実践できるかと言うと、正直、事務局だけでは難しいので、今後、皆さんと一緒に考えていけるとよい。

- ・資料4に「特権的」とか「各自の団体が有利になることを優先して」とあるが、そう思って活動している団体さんはいないのではないか。分科会の活動と個別の会員の活動が両輪であり、両方が機能して、マネジメント会議全体が盛り上がっていく。

→分科会も、個々の団体の活動も大切である。また、「特権」という言葉は誤解を招くので表現の仕方は気をつける。



情報共有：(4)公園マネジメント会議の意義と仕組み

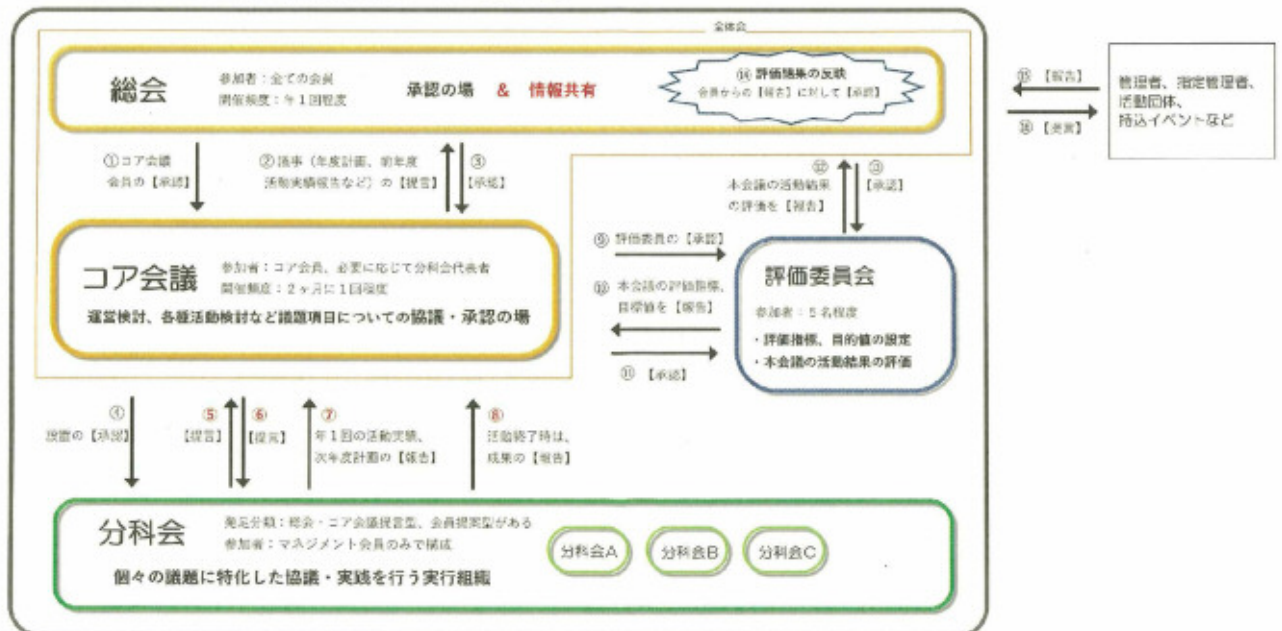
【テーマ1】公園マネジメント会議の意義について、明文化して共有する。

- ・会議の発足から11年目となり、発足当初は、暗黙の内に共有されていた意義を、誰もが見られる形で共有する必要がある。
- ・運営ルールブックの「はじめに」に記載し、随時見直すこととする。

【テーマ2】公園マネジメント会議の仕組みを再確認しよう！

- ・公園マネジメント会議の仕組みを図にして再確認する。運営ルールブックの内容を図解したものが以下の図のとおり。
- ・第1回コア会議では、現状と異なる部分や改善の余地がある部分に着目。

図 公園マネジメント会議の仕組み（運営ルールブックより）



(グループ討議後、全体共有)

- ・グループ討議で、図「公園マネジメント会議の仕組み」⑩提言が大切だという話しになった。マネジメント会議は管理者や指定管理者等に、どういふうに提言できているのだろうか。提案方法がイメージできると、議論の勢いも増すのではないかと。例えば、管理者のトップが大村知事だとするならば、少なくとも年1回、目を通すことがあるのか・ないのか気になるという話をグループ内でさせてもらった。

→【事務局】公園管理者である公園緑地課は、事務局として会議に出席して、提案をしっかりと受け止め、必要があるものは関係部署に話をさせてもらっている。

→対応が悪いと言っているわけではなく、提案のルートがあまり明確に見えないという意見である。

→【三矢コーディネーター】僕なりの解釈としては、分科会等小グループでたたき台が作られ、コア会議で承認され、マネジメント会議の合意案として、県の担当者を通じて然るべき部署に提

示されることだと思う。ジブリパークの件であれば、ジブリパーク構想推進室である。

→コア会議以外に、分科会及びパートナーでも関わる方々で意識共有をして、事務局に提言していただけるような定期的な交流会を開催したらどうか。分科会だけの交流では、お互いのことを知る機会が減ってしまう。

- ・ 図「公園マネジメント会議の仕組み」の中で提案がある。先ほどの、分科会の報告が年1回では少ないという意見に賛成で、コア会議を年4回開催しているのであれば、図⑦のところに「分科会の経過報告」を入れたらどうか。また、コア会議の参加者は「必要に応じて分科会代表者」とあるが、分科会代表者には常にコア会議に参加してもらった方がいいと思う。あと、コア会議には、現在もオブザーバーとして参加できる仕組みはあるが、「会員もオブザーバーとして出席できる」と記載があれば、より参加しやすい会議体となるのではないかと。
- ・ 公園の来場者や利用者に直接アウトプットできるのは、分科会ではないだろうか。総会以外の場でどう情報共有できるかが重要ではないか。総会で情報共有といっても年1回程度なので、少ないとか物足りないといった状況になる。図「公園マネジメント会議の仕組み」においては、分科会が一番上にくるように逆さにするとよい。
 - 分科会あってこそこの公園マネジメントだと思う。現在、ルールを見直しているが、ルールによって縛られては本末転倒になるので、最小限のルールで、事務局や会員のサポートが受けやすい分科会がたくさん生まれるとよい。意見やアイデアが発言しやすい交流会のような場があれば、オープンな風通しの良い組織となり、分科会から企画ミーティング、コア会議とつながっていくので、やはりこの図は、分科会が一番上にあるのがいいと思う。
 - いただいた提案と事務局で思案したことはたぶん一緒だと思う。この後行われる「会員交流会」は会員さん自身の思いを語っていただき、他の会員さんも共有できる場でもある。飛び入り参加可能なので、都合のつく方はご参加よろしく願います。
- ・ 資料5-1…運営ルールブック「はじめに」に記載する公園利用者と公園活用者の①公園に遊びに来る人について、そういう方々の思いを回収する場面はあるのか。
 - サトラボやもりの学舎の行事に、公園に来た理由や何をしたか、何が良かったか等、来園者にアンケート調査を行っていた。
 - 5、6年前は、年に2回ぐらい、公園緑地課の方と一緒に、イベントがない時にもアンケート調査をしていたが、現在は実施しているのか？
 - 現在はやっていない。日常の情報収集については、皆さんと考えていきたい。





会員情報

(報告)

(1) 知っていましたか？〇〇

・「横浜ゴム株式会社 新城工場」より、活動の報告があった。

(2) 分科会活性化プロジェクト

・「イベント企画運営実行委員会」より活動の報告があった。

(活動報告)

<横浜ゴム株式会社 新城工場>…欠席のため、事務局より紹介

- ・社会貢献活動の一環で、年間約5万本の苗木を育てている。
- ・愛・地球博記念公園内においても、NPO 法人どんぐりモンゴリさんなど他の会員さんと一緒にポット苗づくり体験や植樹活動を行っている。

<イベント企画運営実行委員会>…実行委員会の事務局、公園緑地課より紹介

- ・令和元年9月21日(土)、22日(日)に「モリコロパーク秋まつり」を開催。
- ・従来、県主催のメインイベントとして、愛・地球博の開幕・閉幕に合わせた「春まつり」「秋まつり」を開催してきたが、財源としていた万博の剰余金が尽き、県もイベント予算を確保していくのが難しい状況となり、主催を県から実行委員会に移行した。昨年度の第2回総会で承認され、イベント企画運営実行委員会を立ち上げた。
- ・昨年度3月に実行委員会として「桜まつり」を試行的に実施し、今年度、秋の9月に「モリコロパーク秋まつり」を実行委員会主催のメインイベントとして初開催した。
- ・イベントを開催するには、費用が必要である。県の予算がない中で、自分たちの力でどういう形でやったらイベントができるのか。尚且つ、従来の記念イベントでは、交流センターを主会場にして展開していたが、来客動線を引っ張り込むのが課題だと言われていた。そこに大きな集客企画をもってくるだけの力もないという状況の中で、実行委員会ではどのような形で集客するかイベント構想が話し合われた。

- ・例年、大芝生広場では大きな集客イベントがある。秋まつりの日程に合わせて、大芝生広場では、実行委員会の会員である（株）流行発信さん主催の東海エコフェスタが開催されるので、大芝生広場隣の三日月休憩所（屋根付き休憩所）でワークショップ出展。尚且つ、大芝生広場の玄関口となるモリコロエレベーター前では簡易ステージ企画を開催。従来使用していた地球市民交流センターをまるっと活用できる企画「FUN FESU」を展開する形で、モリコロパーク秋まつりを開催した。
- ・従来の「春まつり」「秋まつり」とは違った雰囲気の中で、公園全体がにぎわい、今までにない新しい発見もあり、我々の力でできるイベントの形として示せたのではないかな。
- ・【実行委員会会長 早川氏】県の予算がない中で、試行錯誤、皆さんの意見を聞きながら進めていって、とりあえず形にできたのが、前回の「秋まつり」だと思う。やはり予算がないので、何をするにも皆さんの負担になってしまって、次回の「春まつり」も苦戦している状況である。しかし、予算はないが、魅力的なイベントにするため皆さんで稼ぎ出すような形ができればと思い、一部分、動き出している。皆さんの意見を聞きながら、少しずつ変えていっているので、諦めずに参加してほしい。

連絡事項

（連絡）

- ・引き続き同会場にて「会員交流会」を開催する。

以上